学生用資料

**ICF視点でアセスメントを行うためのステップ**

**1. ICFとは？** ICFは、身体機能、活動、参加、環境因子、個人的因子という5つの要素を考慮して、患者の健康状態を包括的に評価するための枠組みである。これにより、患者の障害や機能状態を多面的に理解し、適切な介入方法を見つけることができる。

**2. アセスメントのステップ**

**ステップ1：患者の背景情報を収集する**

まず、患者の基本的な情報を収集する。これには、年齢、性別、既往歴、生活環境、社会的背景、家族構成などが含まれる。患者の病歴や現在の症状、支援状況などを把握することが重要である。

**例**

* 年齢：80歳
* 性別：男性
* 既往歴：糖尿病、軽度の認知症
* 家族構成：妻と二人暮らし
* 日常生活：テレビを見て過ごすことが多い

**ステップ2：身体機能の評価を行う**

身体機能（Body Functions and Structures）を評価することで、患者の健康状態や身体的な制限を把握する。特に、認知機能、運動機能、感覚機能、栄養状態などを観察する。

**評価項目例**

* **認知機能**：記憶や注意力の低下、判断力の低下
* **身体機能**：筋力低下、歩行不安、転倒リスク
* **感覚機能**：視覚や聴覚の障害
* **栄養状態**：体重減少、食欲不振、BMIの低下

**評価方法**

* 観察：患者の動作や行動を観察する
* 面接：患者に症状や自覚症状を尋ねる
* チェックリスト：身体機能に関する指標を確認する

**ステップ3：活動（ADL）の評価を行う**

次に、患者の日常生活活動（Activities of Daily Living：ADL）の能力を評価する。これにより、患者が自分で行える活動の範囲や、援助が必要な活動を特定する。

**評価項目例**

* **食事摂取**：自分で食事を摂れるか、食事を作れるか
* **移動**：歩行や階段昇降、トイレの利用ができるか
* **身の回りの生活**：衣服の着脱、入浴、排泄の管理ができるか
* **趣味や社会的参加**：趣味（例：家庭菜園）や外出、社会活動への参加の有無

**評価方法**

* 面接：患者に自立度や援助が必要な場面を聞く
* 観察：患者の活動状況を実際に観察する

**ステップ4：参加の評価を行う**

次に、患者が社会活動にどのように参加しているかを評価する。これにより、患者の社会的な孤立感や社会的役割を把握することができる。

**評価項目例**

* **社会的参加**：家族や友人との関わり、地域活動への参加
* **職業的参加**：仕事やボランティア活動への参加（例：家庭菜園など）
* **趣味・レジャー活動**：趣味や余暇活動（例：読書や映画鑑賞）

**評価方法**

* 面接：社会的活動や趣味への関心を尋ねる
* 観察：患者の外出頻度や友人・家族との交流の状況を観察する

**ステップ5：環境因子の評価を行う**

環境因子（Environmental Factors）は、患者の生活環境や社会的支援を評価する。これにより、患者の生活の質に影響を与える外部要因を特定する。

**評価項目例**

* **住宅環境**：住んでいる家のバリアフリー度、階段の有無
* **社会的支援**：家族からの支援の有無、介護サービスの利用
* **地域の支援**：地域の福祉サービスや医療機関のサポート

**評価方法**

* 面接：家族や患者自身から支援の状況を聞く
* 観察：住環境や地域の支援機関の有無を確認する

**ステップ6：個人的因子の評価を行う**

個人的因子（Personal Factors）は、患者の個別の背景や心理的状態に関わる。これには、年齢、性格、価値観、生活習慣、心理状態などが含まれる。

**評価項目例**

* **年齢や健康状態**：高齢、慢性疾患の有無
* **心理的状態**：ストレス、不安、抑うつ、自己効力感
* **生活習慣**：食事習慣や運動習慣

**評価方法**

* 面接：患者の心理的状態や価値観を聞く
* 観察：患者の表情や言動から心理的状態を把握する

**ステップ7：アセスメント結果の統合とケア計画の立案**

収集した情報をもとに、患者の問題点を明確にし、それに基づいてケア計画を立案する。この段階では、患者の強みと弱みを踏まえた支援が求められる。

**ケア計画の立案例**

* **栄養サポート**：食事意欲を促進するための工夫、栄養管理
* **認知症支援**：認知症に対応した日常的なケアや介助
* **心理的支援**：心理的サポートや社会的なつながりを促進する活動
* **身体機能の維持**：転倒予防や運動習慣をサポートするプログラム

**まとめ**

ICF視点によるアセスメントは、患者を多面的に理解するための強力な手段である。身体機能、活動、参加、環境因子、個人的因子の5つの要素を総合的に評価し、患者に最適なケアを提供するための基盤となる。このアセスメントを通じて、患者の生活の質を向上させるためにどのような支援が必要かを明確にすることができる。